

平成28年度学校経営計画に対する自己評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	達 成 度 判 断 基 準	判 定 基 準	備 考	
1 生徒の主体的・協働的学習を推進し、アクティブラーニングの手法により、思考力や表現力、コミュニケーション能力の育成に努める。(学びのスタンダード、SPH 事業の推進)	①	県工学びのスタンダードを活用し、かつSPH事業にて育む資質・能力の育成を目標とすることにより、創意工夫されたわかりやすい授業を実践する。	教務課 各教科	県工学びのスタンダードおよびSPH事業にて育む資質・能力に沿った授業を実践しているが、深い学びや思考力、的確な表現力につながる学習習慣がまだ身につけていない。	【満足度指標】 思考力、表現力が身についたと生徒自身が実感できることが、授業に対する満足度につながる。	根拠を提示して論理的に主張できると回答する生徒の割合で判断する。 [新規] A 80%以上 B 65%～80%未満 C 50%～65%未満 D 50%未満	C以下の場合は、教務委員会、各教科等を中心に、目標提示および評価方法などを再検討する。	生徒を対象にアンケート調査を実施する。 (7月、12月)
	②	生徒の主体的な学習を確保し、学習習慣を身につけさせる。	教務課 各教科	家庭学習時間の減少や学習意欲の減退等の課題に対応する必要性が指摘されており、学習に対する意識付けや家庭学習につながる課題の出し方などを検討し、改善することが求められる。	【努力指標】 予習・復習及び資格取得に向けた学習等、通常の授業以外の学習時間を確保する。	学校での補習や家庭での学習時間を1日1時間確保できているかどうかで判断する。 [継続] A ほとんど確保できた B 週に2～3回確保できた C 週に1回程度確保できた D ほとんど確保できなかった	A評価が70%未満の場合、教務委員会、各教科等を中心に、意識付けの方法や課題の出し方を再検討する。	生徒を対象にアンケート調査を実施する。 (7月、12月)
	③	教師個人及び各教科にて積極的にアクティブラーニングを取り入れた授業改善に取り組み、新しい授業づくりに挑戦する。	教務課 全教員	授業力向上に向けて、相互の授業参観等が行われているが、生徒同士が「学び合い」「教え合い」責任を持ち合うことのできる能動的な学びの環境の整備が求められる。	【努力指標】 生徒が「能動的に」参加する授業を目指す公開授業を実施し、相互に授業参観する。	日々の授業においてアクティブラーニングを意識した授業を行っているかどうかで判断する。 [改定] A 月に数回行っている B 月に1回程度行っている C 学期に1回程度行っている D ほとんど実施していない	A+B評価が80%未満の場合、再検討する。	教師の自己評価アンケートを実施する。 (7月、12月)
	④	授業の情報化および学力の定着が実感できる授業を目指し、ICT機器の活用を促進する。	学習情報課	1年生全クラスにプロジェクターを配備し、若手教員を中心に、活用が進められている。しかし、まだICT機器を活用した授業の比率は高くない。ICT機器の活用を一層図る必要がある。	【努力指標】 ICT機器の活用を促進し、授業におけるICT機器の利用する教員数を増やす。	年間に利用した平均値で判断する。 [改定] A 5回以上 B 4回以上 C 3回以上 D 2回以下	C以下の場合は、学習情報課を中心に、ICT機器利用に係る研修のあり方を見直す。	教師の自己評価アンケートを実施する。 (7月、12月)
2 将来の職業人としての意識の高い生徒の育成のため、規範意識やマナーの向上を目指す。(人間力スタンダード、校訓の活用)	①	校訓を掲げることにより、共通の理念のもと、一人ひとりの生徒の愛校心や帰属意識等、精神力を高め、将来の職業人に相応しい、規範意識や基本的な生活習慣を身につけた生徒を育成する。	生徒指導課 各学年	卒業後に実社会へ出ていく本校生徒にとっての基本的な生活習慣である挨拶や時間の励行等については常に指導しているところである。将来の社会人としての基本的な生活習慣の確立を目指し引き続き取り組む必要がある。	【努力指標】 人間性の溢れた活力ある校風を築くことを目指し、全校生徒が元気で爽やかな挨拶を励行する。	挨拶の励行に積極的に取り組もうと努力している生徒の割合で判断する。 [継続] A 95%以上 B 85%～95%未満 C 75%～85%未満 D 75%未満	C以下の場合は、生徒指導課・学年団を中心に指導の改善を図る。	生徒を対象にアンケート調査を実施する。 (7月、12月)
		周辺美化活動や除雪作業等のボランティア活動や県モノづくりワールド等の地域との交流活動を通して地域に貢献する意識を育てる。	総務課	町中であって周辺地域に対する理解や協力が必要であり、今後ともボランティア活動等の地域貢献活動を通じた一層の連携強化が求められる。	【努力指標】 ボランティア活動等、地域貢献活動に積極的に参加する意識を育てる。	前年比の減少の割合で判断する。 [新規] A 前年比10%以上の減少 B 前年比5%～10%未満の減少 C 前年比0%～5%未満の減少 D 前年比増	C以下の場合は、生徒指導課・学年団を中心に指導の改善を図る。	生徒指導課の集計人数で判断する。 (12月)
	②	交通ルール等の遵守など、社会の一員としての自覚を高める。	生徒指導課 学年団	一昨年、昨年と違反指導件数が前年比40%以上減少した。年間違反件数は50件弱だが、交通事故の撲滅のため、更なる違反指導件数の減少に向けた全校的取り組みが求められる。	【努力指標】 石川県警察が発表する月別の違反指導件数の減少を目指す。	違反指導件数減少の割合を目標とする。 [継続] A 前年比10%以上の減少 B 前年比5%～10%未満の減少 C 前年比0%～5%未満の減少 D 前年比増	Dの場合は、生徒指導課を中心に、指導方法を再検討し、全校的な意識の変革を図る。	県警発表の件数で判断する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考	
3 専門的技術の習得をはじめ、資格取得や検定、各種コンテストに意欲的に取り組み確かな進路実現を図る。(技能スタンダードの推進)	①	就職希望者が100%内定するとともに、第1社目受験での進路実現を図る。	進路指導課 3年学年団	昨今の就職希望者増に対応し、各学科に応じた求人数を確保し、企業が求める人材と生徒の資質や特性との一層のずれのないマッチングが求められている。	【成果指標】 就職希望者の1社目受験での内定率をみる。	就職希望者が1社目受験で内定した割合で判断する。[継続] A 90%以上 B 85%～90%未満 C 80%～85%未満 D 80%未満	C以下の場合は、内容を分析し、次年度の進路指導に反映させる。	年度末に集約し、判断する。
	②	専門分野の技能向上の一環として、課題研究の内容充実を図る。	工業7学科	課題研究は工業教育の柱のひとつであり、各科専門分野に係る学習の集大成として、より充実した取り組みと成果が求められる。	【成果指標】 県工展における来場者アンケートから、作品に対する評価をみる。	「良かった」と評価された割合で判断する。 [改定] A 90%以上 B 85%～90%未満 C 80%～85%未満 D 80%未満	C以下の場合は取り組みを再検討する。	県工展の来場者を対象にアンケート調査を実施し、判断する。
	③	生徒の将来に役立つよう資格取得指導に積極的に取り組む。	工業7学科 教務課	資格取得は専門学校における職業教育の中核となるものである。県工学びのスタンダードを柱に据え、各学科ごとに、より一層資格取得に取り組む必要がある。	【成果指標】 ジュニアマイスター認定者数の状況をみる。	認定者数(特別表彰+ゴールド+シルバー)で判断する。 [継続] A 60名以上 B 50名～60名未満 C 40名～50名未満 D 40名未満	Dの場合は、工業各学科で指導方法や指導内容を再検討する。	年度末に集約し、判断する。
	④	全国レベルの各種コンテスト・コンクールにおいて上位入賞を目指す。	工業7学科	それぞれの学科に関係する様々な全国大会やコンテスト、各種コンクールがあり、本校から積極的に参加している。大会成績およびコンテスト等の結果は、各学科専門教育のレベルを測る指標の一つと捉える。昨年度は、全国大会での2連覇およびコンクールにおける全国入賞、ものづくり全国大会出場と取り組みの成果があった。今後も継続して県大会はもとより、全国で活躍する取り組みが求められる。	【成果指標】 予選の有無やコンテスト等の特色により基準が異なることから、状況による判断基準を設定する。	[地区予選を経て、全国大会出場となる競技や大会]の場合、大会出場の難易度で判断する。 [継続] A 全国大会でベスト16以上の成績であった B 全国大会に出場した C ブロック大会で入賞した D 県大会で入賞した ----- [地区予選がなく、直接全国大会出場となる競技や大会]の場合は、出場した全国大会の成績で判断する。 [継続] A 全国大会でベスト8以上の成績であった B 全国大会でベスト16以上の成績であった C 全国大会で初戦突破した D 全国大会に出場した ----- 各種コンテスト、コンクールの難易度で判断する。 [継続] A 全国レベルのコンテスト等で入賞 B 全国レベルのコンテスト等で入選 C 県レベルのコンテスト等で入賞 D 県レベルのコンテスト等で入選	Dの場合は、工業各学科で指導や取り組みの見直しを行う。	年度末に集約し、判断する。
4 部活動や学校行事等、課外活動への積極的な参加を促し、たくましい体力と精神力、豊かな心を育む。	①	活発な部活動を通して、加入率と成果の更なる向上に努める。	生徒会課	部活動の加入率は、昨年度は95.1%であった。部活動は学校における活力の根源であり、学校活性化のための柱として位置付ける。	【努力指標】 部活動への積極的な加入を促進し、加入率をみる。	各学年の部活動の加入率で判断する。 [継続] A 95%以上 B 90%～95%未満 C 85%～90%未満 D 85%未満	C以下の場合は、部活動の在り方について、部活動顧問連絡会で改善策を検討する。	部活動加入状況調査を実施する。 (7月、12月)
				県総体での総合成績は男子が5位男女総合が7位であった。県高校総体総合優秀校を目指し、一層の強化が求められる。	【成果指標】 運動部・文化部のそれぞれが、県代表となることを目標に、活動のレベルアップを図る。	県総体の成績等で判断する。(個人・団体あわせて) [継続] A 全国大会5部以上出場または総体順位男子2位以内 B 全国大会3部以上出場または総体順位男子4位以内 C 全国大会1部以上出場または総体順位男子6位以内 D 総体順位男子6位以内	Dの場合は、部活動活性化に向けた方策を検討する。	年度末に集約し、判断する。
	②	学校行事に積極的に取り組む姿勢を大切にし、協調性や責任感など心豊かな生徒の育成を図る。	生徒会課	競技大会や県祭など学校全体の行事や各学科の行う特色ある取り組みなど、多彩な行事が展開され、生徒の活力につながっている。今後、保護者が実感できるレベルまで更なる充実を図りたい。	【満足度指標】 保護者の目から見た生徒の学校行事に対する満足度をみる。	保護者の目から見て生徒が学校の行事に満足していると回答する割合で判断する。 [継続] A 90%以上 B 75%～90%未満 C 60%～75%未満 D 60%未満	C以下の場合は、次年度の行事について内容を検討する。	保護者を対象にアンケート調査を実施する。 (12月)
③	歯科保健指導を通し、健康な生活を営むことができる能力の育成に努める。	保健課	歯科治療受診完了率は、少しずつ上昇している。健康への意識「早期発見・早期治療」の指標と捉える。今年度も継続して受診生徒の増加を目指す。昨年度は28.0%(12月)であった。	【努力指標】 保健だよりなど情報提供により、歯科受診率の推移をみる。	歯科受診済の生徒の割合で判断する。 [継続] A 30%以上 B 25%～30%未満 C 20%～25%未満 D 20%未満	Dの場合は、学年団や部顧問と協力し、指導の取り組みの見直しを図る。	学期ごと受診結果報告書を集計し、判断する。 (7月、12月)	